

2025年チェコ・スウェーデン・ラトビアツアー報告

期間：2025年7月4日～7月15日

訪問国・都市：チェコ（プラハ）、スウェーデン（ストックホルム）、ラトビア（リガ）

目的：剣道を国際社会に広め、また現地剣士と交流し交剣知愛を深める

メンバー：団長 曾根孝悦、藤原勝、椎名士朗、小下明人、黒岩誠、田川嘉紀、
小淵俊江、永田敬生（主催：NPO 法人 国際社会人剣道クラブ）

1. チェコ（7/5～7）

◎ 乗り換えのヘルシンキ空港で関東組・関西組が合流する予定でしたが、関西組の乗り換え時間が短く、予定のプラハ行きのフライトに間に合わず、ツアー初日から軽いアクシデントに見舞われました。関西組と関東組の一部はアムステルダム経由のフライトで約半日遅れでプラハに合流。しかしハプニングは旅行の常、アムステルダム空港での昼食を楽しむことができたものの、やはり乗り換えには2時間程度を確保する必要があるようです。

◎ その晩はおいしいチェコのピルスナービールで結団式を行い、翌日は稽古までの時間を、中世の面影を色濃く残した古都、プラハ城・カレル橋の散策やクルーズを楽しみました。

◎ 二日目午後にはチェコ剣士との合同稽古。インドラ先生の自宅兼の道場で、日本式の床を持った立派なものでした。約20名のチェコ剣士が3道場から集まり、曾根団長から気剣体の一致の打ちを目指した指導が行われました。面を打つ切り返し、体当たりをしてからの切り返し、胴の切り返し、面と胴のコンビネーションの切り返し、お互いに打ち合う切り返し、道場を長く使った往復の切り返し、8人程度を立てての連続打ち込みなどを行い、最後に日本人全員が元立ちに立って地稽古を行いました。

2時間余りの稽古に真剣に向き合い、集中して取り組む姿に感動。また、姿勢が正しく、打突がしっかりしており、日ごろの稽古に向き合う真剣さが感じられました。



2. スウェーデン (7/7~10)

◎ 空港から電車でストックホルムに移動。小雨が降っていて、灼熱の日本からは想像できない 15-16 度の肌寒い気候の中投宿し、夜は現地上安先生のご紹介でスウェーデン料理のおいしいレストランへ。名物のミートボールや鮭を楽しみました。翌日は天候も回復し、快い青空の下、夕方からの剣道セミナーまでの時間を使ってストックホルムを散策しました。ニッセ先生、山崎先生、上安先生には街の案内はじめ大変にお世話になりました。

◎ 剣道セミナーには、スウェーデンだけでなくフィンランドからも参加があり、約 40 名の剣士を前に曽根団長から気剣体一致を目指した稽古指導が二日間にわたり実施されました。6 月の欧州選手権で個人優勝したマルクス選手や 2 刀で世界大会に出場した渡辺錬 6 段も参加されました。2 日目は現地 6 段以上の剣士 7 名と日本人 8 名で 40 分の周り稽古も行われ充実した時間でした。

◎ この時期ストックホルムは 23 時ごろまで日が残っていますが、最終日は、スウェーデン主催のパーティーがインド料理店で催され、スウェーデン剣士と夜遅くまで大いに交剣知愛を楽しみました。





3. ラトビア (7/10~7/15)

◎ 朝 3 時半起床でラトビアに向かいました。ストックホルム空港では AirBalt の窓口で事前チェックインをしていないと受付しないと突然言われ、時間はかかりましたが何とか対応しました。

◎ ラトビア空港ではキンズリス会長自らに出迎えられて投宿。夕方には、日本から持参の紙、硯、墨等も使って書道教室が行われ 20 家族以上が参加しました。それぞれに希望の文字や自分の名前を漢字で書いたりしました。漢字の良さですね、見た目も美しいし、ひとつの文字に意味があり説明すると驚かれます。現地の方が喜んでいるのが伝わってきて、講師陣にも熱が入り、大いに盛り上がりました。

◎ 二日目午前中は、13 世紀のハンザ同盟に遡るリガの古都を散策。前日の雨模様の天候は回復し、気持ちの良い気候の下、石畳みを歩きました。古いマーケットもあり、大変興味深かったです。

◎ 夕方からは合同稽古が行われました。翌日の大会に向け集まった各国の選手と竹刀を交えました。

三日目は湯村杯個人戦。吉田在ラトビア日本大使やご当地柔道連盟会長も出

席され、バルト三国、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、イングランド、ポーランド、トルコ、イスラエルから 65 名が参加し、2 会場に分かれて熱戦が繰り広げられました。日本人と欧州の 6 段以上は審判。

また、これまでの長年に亘る国際社会人剣道クラブの貢献に対し感謝状と記念品が贈呈されました。

◎ 終了後は曾根団長から剣道セミナーを行い、その後日本人と欧州の 6 段以上が元立ちに立って稽古。四日目は、湯村杯団体戦。開催国ラトビアが男女とも優勝しました。2 年前までは優勝はなかったとのこと、日常の稽古のたまものでしょう。

大会終了後には、欧州審査員により昇段審査。続いて合同稽古。時間は短いながらも日本人も目当ての海外剣士との立ち合いを楽しみました。私もイスラエル人と稽古しましたが、日本とは少し違ったフィジカルの強い剣道でした。その晩は全員でパーティ。いろいろな国の剣士と交流を楽しみました。11 日間の剣道ツアーも、終わってしまえばあっという間。充実した楽しい時間でした。





